『小学算数』2年　年間指導計画（詳細案）

●　さあ、算数の　学習を　はじめよう！　（上 p.2 ～ 10）

4月中旬［1時間］

時間	学習活動
1	○前学年までの学習内容で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせて問題解決的な学習を進めることを通して、算数科における学習の進め方を確認する。 ・教科書の巻末に切り離しが可能な「学び方ガイド」「算数で　つかいたい　見方・考え方」が付いていることを紹介し、算数の学習の進め方を確かめたいときには、いつでも、このシートを見るとよいことを知らせる。
※	・「算数ノートを　つくろう」に示されたノート例を見て、算数のノートのかき方を学級で共有する。
※	・「教科書の　つかい方」を見て、教科書の各コーナーの意図やマークの意味などを確認する。 ・「二次元コード」のコンテンツの種類や使うときの注意事項を確認する。

1　ひょうと　グラフ〔わかりやすく　あらわそう〕　（上 p.11 ～ 16）

4月中旬［5時間］

【単元の目標】

（1）身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり、それらをよみ取ったりすることができる。
（2）データを分析する観点に着目し、身の回りの事象を簡単な表やグラフに表し、データの特徴をとらえることができる。
（3）データをわかりやすく表そうとするとともに、簡単な表や○などを並べたグラフで表したことを振り返り、簡潔で視覚的にわかりやすく表せることに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身の回りにある数量を分類整理し簡単な表やグラフを用いて表すことができる。 ②身の回りにある数量を分類整理して表した簡単な表やグラフを読むことができる。	①身の回りの事象について、簡単な表やグラフに表すことで差の大小や全体の傾向について考えている。	①データの整理に進んで関わり、数量の大きさの違いを一目でとらえることができるなどの、グラフのよさに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.11）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
ひょうと　グラフ（p.11 ～ 15）　4時間			
1・2	○単元アプローチ（p.12） ・既習の数の整理の仕方（絵グラフ）を振り返る。		知①：観察・ノート
	○既習の方法を用いて身の回りにある数量の分類整理に進んで関わり、簡単な表やグラフを用いて表すことによって、数量の大きさの違いを一目でとらえることができるなどの、グラフのよさに気づく。	・メダルの数を色ごとに分類整理して、表やグラフで表す。	知①：ノート 態①：発言
3	○データの分類整理に進んで関わり、身の回りにある数量を前時とは別の観点で分類整理して簡単な表やグラフに表したりそれを読んだりすることによって、数量の大きさの違いを一目でとらえることができるなどの、グラフのよさに気づく。	・観点を変え、かざりの形ごとにメダルの数を分類整理して、表やグラフで表す。	知②：ノート 態①：発言・観察

4	○身の回りの事象について、簡単な表やグラフに表し、それを読むことによって、差の大小や全体の傾向について考え表現する。	【つかってみよう】 ・学校のまわりの草花の数を調べて整理する。	知①②：観察・ノート 思①：観察・ノート
学習を　たしかに（p.16）　1時間			
5	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「ひょうと　グラフ」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②：ノート 思①：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.142）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

2　たし算〔たし算の　しかたを　くふうしよう〕　（上 p.17 ～ 30）

4月中旬～4月下旬［8時間］

【単元の目標】

（1）2位数の加法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを知るとともに、その筆算の仕方や加法の交換法則について理解し、2位数の加法の計算を筆算ですることができる。
（2）十進位取り記数法に着目し、2位数の加法の計算の仕方を図や式、ことばなどを用いて考え表現することができる。
（3）2位数の加法の計算についてその計算の仕方を考えようとするとともに、図や式、ことばなどを用いて考えた過程を振り返り、筆算形式のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①2位数の加法の計算が1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②2位数の加法の筆算の仕方について理解している。 ③2位数の加法の計算が確実にできる。 ④加法に関して成り立つ性質について理解している。	①2位数の加法の計算の仕方を考えている。 ②2位数の加法の計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考えている。	①2位数の加法の計算の仕方を考えようとしている。 ②2位数の加法の計算を生活や学習に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.17）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　たし算（1）（p.18 ～ 22）　4時間			
1	○単元アプローチ（p.18） ・さし絵を見て、（2位数）+（2位数）の計算について考え、問題づくりをする。		思①：ノート・発言
2・3	○2位数の加法の計算の仕方を進んで考え表現する。	・34＋25の計算の仕方を考える。 ・繰り上がりのない（2位数）+（2位数）の計算の筆算による仕方をまとめる。	思①：ノート・発言 態①：観察
4	○2位数の加法の筆算の仕方について計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考え表現する。	・繰り上がりのないたし算（派生型）の筆算による仕方を考える。 例　75＋20、63＋4	知②：ノート 思②：発言・ノート
2　たし算（2）（p.23 ～ 26）　2時間			
5	○一の位が繰り上がる2位数の加法の計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考え表現する。	・38＋24の計算の仕方を考える。 ・一の位が繰り上がる（2位数）+（2位数）の計算の筆算による仕方をまとめる。	思②：発言・ノート 態①：観察
6	○いろいろな2位数の加法の計算が確実にできるようにし、それを生活や学習に活用しようとする。	・繰り上がりのあるたし算（派生型）の筆算による仕方を考える。 例　34＋56、45＋7	知③：ノート 態②：観察

3　たし算の　きまり（p.27 ～ 28）　1 時間			
7	○加法に関して成り立つ性質について理解し、それを生活や学習に活用しようとする。	・加法の交換法則を調べる。 ・加法の交換法則を用いて、加法の答えの確かめをする。	知④：ノート 態②：観察・ノート
学習を　たしかに（p.29 ～ 30）　1 時間			
8	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「たし算」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③④：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.143）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

3　ひき算〔ひき算の　しかたを　くふうしよう〕　（上 p.31 ～ 43）

5 月上旬～ 5 月中旬［9 時間］

【単元の目標】

（1）2 位数の減法の計算が、1 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを知るとともに、筆算の仕方や加法と減法の相互関係について理解し、2 位数の減法の計算を筆算ですることができる。
（2）十進位取り記数法に着目し、2 位数の減法の計算の仕方を図や式、ことばなどを用いて考え表現することができる。
（3）2 位数の減法の計算についてその計算の仕方を考えようとするとともに、図や式、ことばなどを用いて考えた過程を振り返り、筆算形式のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①2 位数の減法の計算が 1 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②2 位数の減法の筆算の仕方について理解している。 ③2 位数の減法の計算が確実にできる。 ④加法と減法は互いに逆の関係になっているなど、加法と減法の相互関係について理解している。	①2 位数の減法の計算の仕方を考えている。 ②2 位数の減法の計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考えている。	①2 位数の減法の計算の仕方を考えようとしている。 ②2 位数の減法の計算を生活や学習に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.31）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　ひき算（1）（p.32 ～ 36）　4 時間			
1	○単元アプローチ（p.32） ・さし絵を見て、（2 位数）－（2 位数）の計算について考え、問題づくりをする。		思①：ノート・発言
2・3	○2 位数の減法の計算の仕方を進んで考え表現するとともに、2 位数の減法の計算が 1 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解する。	・35－12 の計算の仕方を考える。 ・繰り下がりのない（2 位数）－（2 位数）の計算の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート 思①：ノート・発言 態①：観察
4	○2 位数の減法の計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考え表現し、理解する。	・繰り下がりのないひき算（派生型）の筆算による仕方を考える。 例　73－30、37－35、96－5、68－8	知②：ノート 思②：発言・ノート
2　ひき算（2）（p.37 ～ 40）　3 時間			
5・6	○一の位が繰り下がる 2 位数の減法の計算の仕方と筆算の仕方を関連付けて考え表現する。	・54－28 の計算の仕方を考える。 ・繰り下がりのある（2 位数）－（2 位数）の計算の筆算による仕方をまとめる。	思②：ノート・発言 態①：観察
7	○いろいろな 2 位数の減法の計算が確実にできるようにし、それを生活や学習に活用する。	・繰り下がりのあるひき算（派生型）の筆算による仕方を考える。 例　80－24、72－65、45－7、60－8	知③：ノート 態②：観察

3　ひき算の　きまり（p.41）　1 時間			
8	○加法と減法は互いに逆の関係になっているなど、加法と減法の相互関係について理解し、それを生活や学習に活用しようとする。	・加法と減法の相互関係を調べる。 ・加法と減法の相互関係を用いて、減法の答えの確かめをする。	知④：ノート 態②：観察・ノート
学習を　たしかに（p.42 ～ 43）　1 時間			
9	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「ひき算」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③④：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.144）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　たすのかな　ひくのかな　（上 p.44）

5 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。（加法・減法場面の演算決定） ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

4　長さの　単位〔長さを　はかろう〕　（上 p.45 ～ 58）

5 月中旬～ 5 月下旬［10 時間］

【単元の目標】

（1）長さの単位（cm、mm）とその関係、測定の意味（量の大きさを単位を用いて数値化すること）について理解するとともに、測定するものに応じておよその見当をつけて適切な長さの単位を選び、身の回りの具体物の長さを測定したり、きまった長さの直線をひいたりすることができる。

（2）身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、測定するものや目的に応じた適切な単位を用いて、長さを的確に表現したり比べたりすることができる。

（3）身の回りのものの長さに関心を持つとともに、長さを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm））と、量の大きさを単位を用いて数値化するという測定の意味について理解している。 ②測定するものに応じて、cm と mm を適切に使って、身の回りの具体物の長さを測定することができる。 ③ 10cm がどのくらいの長さであるかを、身の回りにあるものの大きさをもとにしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。 ④まっすぐな線を直線ということを知る。	①長さを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考えている。	①長さを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気づいている。 ②身の回りのものの長さを測定しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.45）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		

1　長さの　はかり方（p.46 ～ 50）　4 時間			
1	○単元アプローチ ・写真を見て、４つの文房具の長さを比べる。		態①：観察
2	○身の回りのものの長さを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、単位を用いることができないか考え表現する。	・長さは、同じ長さのいくつ分で表せることを確かめる。 ・任意単位の限界に気づく。	思①：ノート・発言 態②：観察
3	○長さを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気づき、長さの単位（センチメートル（cm））と、量の大きさを単位を用いて数値化するという測定の意味について理解する。	・長さを、いつでもわかりやすく表す方法を考える。 ・普遍単位「cm」を知る。	知①：ノート 態①：発言
4	○身の回りのものの長さの測定に親しみ、10cm がどのくらいの長さであるかを、身の回りにあるものの大きさをもとにしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもつ。	・ものさしを使って、いろいろなものの長さをはかる。 **【つかってみよう】** ・10cm の長さの感覚をつかむ。	知③：観察・ノート 態②：観察・ノート
2　くわしい　はかり方（p.51 ～ 56）　5 時間			
5・6	○長さの単位ミリメートル（mm）を知り、、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考え表現し、測定するものに応じて、適切な長さの単位を選び、身の回りの具体物の長さを測定することができる。	・はがきの横と縦の長さを調べる。 ・1cm より短い長さの表し方を考える。 ・普遍単位「mm」を知る。 ・30cm のものさしの目盛りのよみ方を知る。	知①②：ノート 思①：観察
7	○まっすぐな線を直線ということを知り、いろいろな長さの直線を作図できる。	・ものさしを使っていろいろな長さの直線を作図する。 ・直線の作図の仕方を確かめる。	知①④：観察・ノート
8	○普遍単位で数値化した長さは同じ単位どうしで計算できることを理解する。	・さし絵の線の長さを調べ、長さの加減計算をする。	知①：ノート・発言 思①：ノート・発言
9	○身の回りのものの長さの測定に親しみ、測定するものに応じて、cm と mm を適切に使って身の回りの具体物の長さを測定することができる。	**【つかってみよう】** ・30cm のものさしを使って身の回りのものの長さをはかる。	知②：ノート 態②：観察
学習を　たしかに（p.57 ～ 58）　1 時間			
10	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「長さの　単位」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③：ノート 思①：ノート 態①②：ノート
※「ぐっとチャレンジ」（p.145）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。			

5　時こくと　時間〔時計を　生活に　つかおう〕　（上 p.59 ～ 66）

6 月上旬［4 時間］

【単元の目標】

（1）時間の単位（日、時、分）とその関係や、時刻と時間の区別、午前と午後の意味について理解し、時刻や時間を表すことができる。
（2）時間の単位に着目し、日常生活における時刻や時間の求め方を考えることができる。
（3）時刻や時間に関心を持つとともに、時刻や時間を求めたことを振り返り、日常生活における時間の使い方をくふうしたり改善したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①時間の単位（日、時、分）について知り、時刻や時間を表すことができる。 ②時間の単位（日、時、分）の関係について理解している。	①日常生活における時刻や時間の求め方を考えている。	①日常生活の中で必要な時刻や時間を求めようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.59）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
時こくと　時間（p.60 ～ 64）　3 時間			
1	○時間の単位（時、分）について知り、時刻や時間を表すことができる。	・起床から登校するまでの時刻や時間を調べ、時刻、時間の意味や時間の単位の関係を知る。	知①：ノート・発言 態①：観察
2	○日常生活における時刻や時間の求め方を考え表現し、時間の単位（日、時、分）の関係について理解する。	・1 日の生活における時刻や時間を調べる。 ・午前、午後の意味を知る。 ・1 日が 24 時間であることを知る。	知②：ノート 思①：発言・ノート
3	○日常生活の中で必要な時刻や時間に関心を持ち、時刻や時間の求め方を考え表現する。	**【つかってみよう】** ・1 日の生活の時刻や時間を調べて発表する。 ・休みの日の予定表をつくる。	思①：発言 態①：発言
学習を　たしかに（p.65 ～ 66）　1 時間			
4	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「時こくと　時間」の学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②：ノート 思①：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.146）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

6　1000までの　数〔100より　大きい　数を　あらわそう〕　（上 p.67 ～ 80）

6月上旬～6月中旬［10時間］

【単元の目標】

（1）1000までの数について、十進位取り記数法による数の表し方、大小、順序、系列、数の相対的な大きさを理解するとともに、数をよんだり、かいたり、不等号（＞、＜）を用いて数の大小関係を表したり、10を単位とする簡単な加減計算をしたりすることができる。

（2）10や100のまとまりに着目し、十進位取り記数法による数の表し方や比べ方を考えたり、数を相対的な大きさからとらえたりすることができる。

（3）身の回りのものの個数を簡潔・明瞭・的確に数えようとするとともに、10や100のまとまりをつくって考えたことを振り返り、数のまとまりに着目するよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①4位数までの数について、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解している。 ②4位数までの数について、書いたり読んだりすることができる。 ③2つの数の大小関係を「＞」、「＜」を用いて表すことができる。 ④4位数までの数について、数を十や百を単位としてとらえることができる。	①ものの個数を実際に数え、図に表すなどして、十進位取り記数法のしくみによる数の表し方を考えている。 ②4位数までの数について、数のまとまりに着目し、数の比べ方を考えている。 ③数の相対的な大きさをとらえたり、1つの数をほかの数の積としてみたりするなど、数を多面的にとらえている。	①身の回りのものの個数を10や100のまとまりにして数えたり、数えたものを数字を使って書いたり読んだりしようとしている。 ②4位数までの数について、簡潔・明瞭・的確に数えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.67）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　数の　あらわし方（p.68 ～ 77）　8時間			
1・2	○単元アプローチ（P.68 ～ 69） ・おはじきの数の数え方を話し合い、100より大きい数に関心を持つ。		態①：観察
	○身の回りのものの個数を10や100のまとまりにして数えたり、数えたものの個数を数字を用いて表したり読んだりすることに親しみ、図に表すなどして、十進位取り記数法のしくみによる数の表し方を考え表現する。	・おはじきの個数を、10、100のまとまりにして数える。 ・3位数の加法的構造を調べ、3位数のよみ方、かき方を知る。	思①：観察 態①：観察
3	○ものの個数を実際に数え、図に表すなどして、十進位取り記数法のしくみによる数の表し方を考え表現し、4位数までの数について、書いたり読んだりすることができる。	・空位のある3位数のよみ方、かき方を考える。 ・3位数のよみ方、かき方の定着を図る。	知②：ノート 思①：発言・ノート
4	○1つの数を10のいくつ分でとらえ、4位数までの数について、十を単位として数の大きさをとらえることができる。	・3位数を乗法的にとらえる。 例　10を13個集めた数を考える。 240は10を何個集めた数か考える。	知④：発言・ノート 思③：観察・発言
5	○4位数までの数の順序や系統を理解し、数直線上で数を書いたり読んだりすることができる。	・1000のよみ方、かき方を知る。 ・数直線に表された数をよむ。 ・数を数直線に表す。	知②：ノート 態②：観察・ノート
6	○4位数までの数を表す数直線の1目盛りの大きさに注目して、数直線上で数を書いたり読んだりすることができる。	・1000までの数の順序、系列を調べる。	知②：ノート 思①：観察・発言
7	○4位数までの数を多面的にとらえ、1つの数をいろいろな見方で表すことができる。	・360をいろいろな見方で表す。	知④：発言・ノート 思③：観察・発言

8	○４位数までの数について、位に着目し、数の比べ方を考え表現し、２つの数の大小関係を「＞」、「＜」を用いて表すことができる。	・３つの数の大きさを比べる。 ・不等号（＞、＜）を知る。	知③：ノート 思②：観察・発言
2　何十の　計算（p.78）　1 時間			
9	○４位数までの数について、数のまとまりに着目し、十を単位として加減の計算ができる。	・10 を単位にした加法・減法の仕方を考える。 例　50＋80、140－80	知④：ノート 思②：観察・ノート
学習を　たしかに（p.79 ～ 80）　1 時間			
10	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「1000 までの　数」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③④：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.147）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

7　たし算と　ひき算の　筆算〔筆算の　しかたを　さらに　くふうしよう〕　（上 p.81 ～ 97）

6 月下旬～ 7 月中旬［11 時間］

【単元の目標】

（1）答えが 3 位数になる加法や簡単な場合の 3 位数などの加減計算について、計算の仕方を理解し筆算で計算できるとともに、加法の結合法則について理解している。

（2）既習の筆算の仕方をもとに十進位取り記数法に着目し、答えが 3 位数になる加法や簡単な場合の 3 位数などの加減計算の仕方を図や式、ことばなどを用いて考え表現することができる。

（3）答えが 3 位数になる加法や簡単な場合の 3 位数などの加減計算について、その計算の仕方を考えようとするとともに、図や式、ことばなどを用いて考えた過程を振り返り、筆算形式のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①２位数どうしをたして答えが 3 位数になる加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解している。 ②簡単な場合について、３位数などの加法及び減法の計算の仕方を知っている。 ③加法の結合法則を理解している。	①２位数どうしをたして答えが 3 位数になる加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えている。 ②簡単な場合について、３位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えている。 ③加法の結合法則について調べ、それを用いて計算の仕方を考えている。	①２位数どうしの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えようとしている。 ②簡単な場合について、３位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。 ③加法の結合法則を用いて計算の仕方を考えることを通してそのよさに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.81）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　たし算（p.82 ～ 86）　4 時間			
1	○単元アプローチ（p.82） ・さし絵を見て、既習の（２位数）±（２位数）の計算を振り返る。		態①：発言・ノート
2	○（２位数）＋（２位数）＝（３位数）の計算の仕方を考え、筆算の仕方について理解する。	・53＋74 の筆算による仕方を考える。 ・（２位数）＋（２位数）＝（３位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート 思①：観察・ノート
3	○繰り上がりが２回ある加法の計算の仕方を考え表現し、その計算の仕方を知る。	・86＋67 の筆算による仕方を考える。 ・繰り上がりが２回ある（２位数）＋（２位数）＝（３位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート・発言 思①：観察・ノート
4	○十の位の計算が 10 になる加法の計算の仕方を考え表現し、その計算の仕方を知る。	・百の位に波及的に繰り上がる（２位数）＋（１、２位数）の筆算による仕方を考える。 例　37＋65、96＋8	知①：ノート・発言 思①：観察・ノート

2　ひき算（p.87 ～ 91）　3 時間			
5	○（3 位数）－（2 位数）＝（2 位数）の計算の仕方を考え、2 位数の減法の筆算の仕方について理解する。	・127－52 の筆算による仕方を考える。 ・（3 位数）－（2 位数）＝（2 位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート 思①：観察・ノート
6	○繰り下がりが 2 回ある計算の仕方を考え表現し、その計算の仕方を知る。	・142－58 の筆算による仕方を考える。 ・繰り下がりが 2 回ある（3 位数）－（2 位数）＝（2 位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート・発言 思①：観察・ノート
7	○百の位が波及的に繰り下がる計算の仕方を考え表現し、その計算の仕方を知る。	・102－47 の筆算による仕方を考える。 ・百の位が波及的に繰り下がる（3 位数）－（2 位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①：ノート・発言 思①：観察・ノート
3　筆算を　つかって（p.92 ～ 93）　2 時間			
8	○（3 位数）＋（1、2 位数）の仕方を考え、その計算の仕方を知る。	・（3 位数）＋（1、2 位数）の筆算による仕方を考える。 例　543＋24、468＋25、156＋9	知②：ノート・発言 思②：観察・ノート 態②：観察
9	○（3 位数）－（1、2 位数）の計算の仕方を考え、その計算の仕方を知る。	・（3 位数）－（1、2 位数）の筆算による仕方を考える。 例　393－52、276－29、324－8	知②：ノート・発言 思②：観察・ノート 態②：観察
4　（　）を　つかった　計算（p.94 ～ 95）　1 時間			
10	○加法の結合法則について調べ、それが成り立つことを理解するとともに、それを用いて計算の仕方を考えようとする。	・3 口の加法の計算の順序を調べる。 ・（　）の意味を知る。	知③：発言・ノート 思③：観察・ノート 態③：発言
学習を　たしかに（p.96 ～ 97）　1 時間			
11	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「たし算と　ひき算の　筆算」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③：ノート 思①②③：ノート 態①②③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.148）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　ふくしゅう　（上 p.98 ～ 100）

7 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、1 学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

8　水の　かさ〔水の　かさを　はかろう〕　（上 p.101 ～ 111）

9月上旬～ 9月中旬［7時間］

【単元の目標】

（1）かさの単位（L、dL、mL）とその相互関係、測定の意味（量の大きさを単位を用いて数値化すること）について理解するとともに、測定するものに応じておよその見当をつけ、適切なかさの単位を選び、身の回りの具体物にはいる水のかさを測定することができる。

（2）身の回りのものの特徴をその中にはいる水のかさに着目してとらえ、測定するものや目的に応じた適切な単位を用いて、かさを的確に表現したり比べたりすることができる。

（3）身の回りのものにはいる水のかさに関心を持つとともに、かさを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水のかさの単位（ミリリットル（mL）、デシリットル（dL）、リットル（L））と、量の大きさを単位を用いて数値化するという測定の意味について理解している。 ②測定するものに応じて、適切なかさの単位を選び、身の回りの具体物のかさを測定することができる。 ③1Lがどのくらいのかさであるかを、身の回りにあるものの大きさをもとにしてとらえるなど、かさの大きさについての豊かな感覚をもっている。	①水のかさを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考えている。	①水のかさを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気付いている。 ②身の回りのもののかさを測定しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.101）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
水の　かさ（p.102 ～ 109）　6時間			
1	○単元アプローチ（p.102） ・2つの水筒にはいる水のかさを直接比較や間接比較を用いて比べる。		態①：観察
2	○かさを数値に表して比べたことを振り返り、普遍単位の必要性に気づき、かさの単位デシリットル（dL）と、かさを単位を用いて数値化するという測定の意味について理解する。	・かさの表し方を考える。 ・かさは、同じかさのいくつ分で表されることを確かめる。 ・普遍単位「dL」を知る。	知①：発言・ノート 態①：発言
3	○水のかさを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考え、かさの単位リットル（L）について理解する。	・やかんにはいる水のかさのはかり方を調べる。 ・かさの単位「L」を知る。 ・「L」と「dL」の相互関係を調べる。	知①：ノート 思①：観察
4	○身の回りのもののかさの測定に親しみ、適切なかさの単位を選び、身の回りの具体物のかさを測定するとともに、1Lがどのくらいのかさであるかを、身の回りにあるものの大きさをもとにしてとらえる。	**【つかってみよう】** ・1Lますや1dLますで、身の回りの容器のかさをはかる。	知②③：観察・ノート 態②：観察
5	○水のかさを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考え、かさの単位ミリリットル（mL）について理解する。	・缶にはいる水のかさを調べる。 ・1dLより小さいかさの表し方を考える。 ・普遍単位「mL」を知る。	知①：ノート 思①：観察
6	○普遍単位で数値化した水のかさは、同じ単位どうしで計算できることを理解する。	・かさの加法性、加減計算について考える。	知①：ノート・観察

学習を　たしかに（p.110～111）　1時間		
7	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「水の　かさ」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。	知①②③：ノート 思①：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.149）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。	

9　三角形と　四角形〔形を　しらべよう〕　（上 p.113～128）

9月中旬～10月上旬［12時間］

【単元の目標】

（1）三角形、四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解するとともに、紙を折る・切るなどして直角、三角形、四角形をつくったり、格子状に並んだ点などを用いて長方形、正方形、直角三角形を作図したりすることができる。

（2）図形を構成する要素（辺、頂点、角など）に着目し、図形の観察や分類を通して、三角形や四角形、長方形や正方形の特徴を見いだすことができる。

（3）身の回りから三角形、四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形を見つけたり、それらの図形で平面を敷きつめる活動を楽しんだりしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①三角形が3本の直線で囲まれた図形であることなど三角形について知っている。また、四角形について知っている。 ②直角や正方形、長方形、直角三角形について知っている。 ③紙を折って、直角や正方形、長方形、直角三角形を作ることができる。 ④格子状に並んだ点などを用いて、正方形、長方形、直角三角形を作図することができる。	①直線で囲まれた図形について、他の図形との比較によって分類し、三角形や四角形などの特徴を見いだしている。 ②四角形について、かどや辺に着目し分類し、正方形や長方形などの特徴を見いだしている。	①身の回りの正方形、長方形、直角三角形が、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。 ②正方形、長方形、直角三角形で平面を敷きつめる活動を楽しみ、できる模様の美しさや平面の広がりに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.113）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　三角形と　四角形（p.114～119）　4時間			
1	○単元アプローチ（p.114） ・さし絵の動物を直線で囲み、直線の意味を確かめる。		思①：観察・発言
2	○直線で囲まれた図形について、他の図形との比較によって分類し、三角形や四角形などの特徴を見いだし、三角形が3本の直線で囲まれた図形であることなど三角形について知る。また、四角形について知る。	・辺や角に着目して、図形の分け方を考える。 ・三角形、四角形の意味を知る。	知①：ノート・発言 思①：発言・ノート
3	○格子状に並んだ点を用いて作図した三角形や四角形の特徴を見いだし、辺、頂点の数を知る。	・辺、頂点の意味を知る。 ・三角形、四角形の辺や頂点の数を調べる。 ・三角形、四角形を作図する。	知①：ノート・発言 思①：観察・ノート
4	○三角形と四角形を1本の直線で分割したときにできる図形について知る。	・三角形を1本の直線で2つに切る切り方を調べる。 ・四角形を1本の直線で2つに切る切り方を調べる。	知①：観察・ノート

2　長方形と　正方形（p.120 ～ 126）　7 時間			
5	○紙を折ってかどの形をつくり、直角について知る。	・紙を折ってかどの形をつくる。 ・直角の意味を知る。 **【つかってみよう】** ・身の回りから直角を探す。	知②③：観察・ノート
6	○紙を折って四角形を作ることによって、長方形を知るとともに、その特徴を見いだす。	・長方形の意味や性質を知る。 ・長方形の弁別をする。	知②③：ノート・発言 思②：ノート・発言
7	○紙を折って四角形を作ることによって、正方形を知るとともに、その特徴を見いだす。	・正方形の意味や性質を知る。 ・正方形の弁別をする。	知②③：ノート・発言 思②：発言・観察
8	○長方形や正方形の紙を対角線で分割することによって、直角三角形について知る。	・直角三角形の意味を知る。 **【つかってみよう】** ・三角定規を並べて、三角形や四角形をつくる。	知②③：観察・ノート
9	○正方形、長方形、直角三角形を作図することができる。	・方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図する。	知④：ノート
10	○正方形、長方形、直角三角形が、日常生活でどのように活用されているのか調べる。	**【つかってみよう】** ・身の回りから長方形、正方形、直角三角形を探す。	思①：発言・ノート 態①：観察・ノート
11	○正方形、長方形、直角三角形で平面を敷きつめる活動を楽しみ、できる模様の美しさや平面の広がりに気づくとともに、敷きつめた図形の特徴を見いだし表現する。	**【つかってみよう】** ・長方形、直角三角形で平面を敷きつめる。	思①：発言・ノート 態②：観察・ノート
学習を　たしかに（p.127 ～ 128）　1 時間			
12	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「三角形と　四角形」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①②③④：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.149）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

10　かけ算（１）〔新しい　計算の　しかたを　考えよう〕　（下 p.5 ～ 25）

10 月上旬～ 11 月上旬［22 時間］

【単元の目標】

（１）乗法の意味や性質、計算の仕方を理解し、乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができるとともに、九九（２、５、３、４の段）を正しく唱えることができる。

（２）数量の関係に着目し、乗法が用いられる場面を具体物や図、式、ことばなどで表したり、乗法の簡単な性質（乗数が１増えると、積は被乗数の分だけ増えること）を見いだしたりしながら、九九の構成の仕方について考えることができる。

（３）累加の場面を乗法の式で表したり、九九を構成したりしたことを振り返り、ものの総数を簡潔な式で簡単に求められる乗法のよさに気づき、身の回りから乗法が用いられる場面を見つけ、用いようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①乗法は、１つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に用いられるなど、乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。 ③乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ④乗法九九について知り、１位数と１位数との乗法の計算が確実にできる。	①乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 ②計算の仕方を振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。 ③日常生活の問題や算数の問題、情報過多の問題、算数以外の教科等の問題などを、乗法を活用して解決している。	①累加の簡潔な表現としての乗法のよさに気づき、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 ②１つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に、乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるというよさに気づき、乗法の場面を身の回りから見つけ、乗法を用いようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.5）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　かけ算（p.6 ～ 14）　７時間			
1・2	○単元アプローチ（p.6） ・数のまとまりに着目して、子どもやジュース、パンフレットの種類の数を数える。		態①：観察・発言
	○累加の簡潔な表現としての乗法のよさに気づき、ものの総数を乗法を用いて表すことに親しみ、乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。	・乗り物に乗っている人数を調べる。 ・同数ずつの集まりをもとに数え方を考える。 ・数量の大きさを「１つ分の数」「いくつ分」でとらえる。	思①：発言・観察 態②：観察
3・4	○乗法が用いられる場面を、図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりし、乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知る。	・自転車に乗っている人の数を調べることを通して、かけ算の意味を知る。 ・かけ算の式のかき方を知る。	知①：ノート 思①：観察・ノート
5	○乗法が用いられる場面を、ブロックを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりする。	・ブロックを「１つ分の数×いくつ分」の考え方で並べる。 ・並んだブロックを見て、その場面をかけ算の式に表す。	思①：観察・ノート
6	○乗法は累加で答えを求めることができることを理解し、情報の簡潔な表現のよさに気づく。	・かけ算の場面を式や図に表し、答えの求め方を考える。	知②：ノート 態①：発言・ノート
7	○乗法の場面を身の回りから見つけ、その場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。	**【つかってみよう】** ・身の回りのものから、かけ算の式で表せるものを探す。	知③：発言・ノート 態②：観察・ノート

2　ばい（p.15～16）　2時間			
8	○1つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分に当たる大きさを「何倍」ということを知る。	・用語「倍」を知る。 ・テープの長さを比べることを通して、倍の意味を知る。	知①：ノート
9	○乗法は倍の大きさを求める計算であることを理解する。	・テープの長さを求める活動を通し、かけ算を用いて倍の大きさを求める。	知①：観察
3　2のだんの　九九（p.17～18）　3時間			
10	○計算の仕方を振り返り、乗数が1増えると積が2増えるという性質を見いだし、それをもとに乗法を構成して、2の段の九九を式に表すことができる。	・用語「九九」を知る。 ・卵を2個ずつ使って1皿分の目玉焼きをつくる場面をもとに、2×□のきまりに気づく。	知③：ノート 思②：観察・発言
11・12	○2の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・2の段の九九を唱える。 ・2の段の九九を適用する。	知④：観察・ノート 思③：観察
4　5のだんの　九九（p.19～20）　3時間			
13	○計算の仕方を振り返り、乗数が1増えると積が5増えるという性質を見いだし、それをもとに乗法を構成して、5の段の九九を式に表すことができる。	・1袋に5個のあんパンがはいっている場面をもとに、5の段の九九を構成する。	知③：ノート 思②：観察・発言
14・15	○5の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・5の段の九九を唱える。 ・5の段の九九を適用する。	知④：観察・ノート 思③：観察・ノート
5　3のだんの　九九（p.21～22）　3時間			
16	○計算の仕方を振り返り、乗数が1増えると積が3増えるという性質を見いだし、それをもとに乗法を構成して、3の段の九九を式に表すことができる。	・1串に3個の団子がさしてある場面をもとに、3の段の九九を構成する。 ・用語「かけられる数」「かける数」を知る。	知③：ノート 思②：観察・発言
17・18	○3の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・3の段の九九を唱える。 ・3の段の九九を適用する。	知④：観察・ノート 思③：観察・ノート
6　4のだんの　九九（p.23～24）　3時間			
19	○計算の仕方を振り返り、乗数が1増えると積が4増えるという性質を見いだし、それをもとに乗法を構成して、4の段の九九を式に表すことができる。	・1パックに4個のヨーグルトがはいっている場面をもとに、4の段の九九を構成する。	知③：ノート 思②：観察・発言
20・21	○4の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・4の段の九九を唱える。 ・4の段の九九を適用する。	知④：観察・ノート 思③：観察・ノート
学習を　たしかに（p.25）　1時間			
22	○『たしかめポイント』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「かけ算（1）」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③④：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.120）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11　かけ算（２）〔新しい　九九の　つくり方を　考えよう〕　（下 p.27 ～ 39）

11 月上旬～ 12 月上旬［15 時間］

【単元の目標】

（１）乗法の意味や性質、計算の仕方を理解し、乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができるとともに、九九（６、７、８、９、１の段）を正しく唱えることができる。

（２）数量の関係に着目し、乗法が用いられる場面を図、式などで表したり、乗法の簡単な性質（交換法則、分配法則）を見いだしたりしながら、九九の構成の仕方について考え説明することができる。

（３）乗法の簡単な性質をもとにして九九の構成の仕方を考えた過程を振り返り、乗法の性質を用いると計算が簡単になったり計算の確かめができたりすることに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ②乗法九九について知り、１位数と１位数との乗法の計算が確実にできる。	①計算の仕方を振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。 ②日常生活の問題や算数の問題、情報過多の問題、算数以外の教科等の問題などを、乗法を活用して解決している。	①累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして、乗法九九を構成しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.27）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　６のだんの　九九（P.29 ～ 30）　４時間			
1	○単元アプローチ ・既習事項を振り返り、２～５の段の九九の表をつくる。		態①：観察
2	○乗数が１増えると積が６増えるという性質を用いるなどして、６の段の九九を構成する。	・アレイ図や、乗法の性質（乗数が１増えると、積は被乗数だけ増える）を使って、６の段の九九を構成する。	思①：発言 態①：観察・ノート
3・4	○６の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・６の段の九九を唱える。 ・６の段の九九を適用する。	知①②：観察・ノート
2　７のだんの　九九（P.31 ～ 32）　３時間			
5	○計算の仕方を振り返り、交換法則・分配法則を見いだし、それらを用いて７の段の九九を構成する。	・アレイ図や乗法の性質（交換法則、分配法則など）を使って、７の段の九九を構成する。	思①：ノート・発言
6・7	○７の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・７の段の九九を唱える。 ・７の段の九九を適用する。	知①②：観察・ノート
3　８のだんの　九九（P.33 ～ 34）　３時間			
8	○計算の仕方を振り返り、分配法則を見いだし、それを用いて８の段の九九を構成する。	・アレイ図や乗法の性質（交換法則、分配法則など）を使って、８の段の九九を構成する。	思①：ノート・発言 態①：ノート・発言
9・10	○８の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・８の段の九九を唱える。 ・８の段の九九を適用する。	知①②：観察・ノート 思②：観察・ノート

4　9のだんの　九九（P.35～36）　3時間			
11	○計算の仕方を振り返り、乗法に関して成り立ついろいろな性質をもとに9の段の九九を構成する。	・アレイ図や既習の乗法の性質を使って、9の段の九九を構成する。	思①：ノート・発言 態①：ノート・発言
12・13	○9の段の九九について知り、その計算が確実にできるとともに、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・9の段の九九を唱える。 ・9の段の九九を適用する。	知①②：観察・ノート 思②：観察・ノート
5　1のだんの　九九（P.37）　1時間			
14	○1の段の九九について知り、その計算が確実にできる。	・1の段の九九を構成する。 ・1の段の九九を唱える。	知②：観察・ノート
学習を　たしかに（p.38～39）　1時間			
15	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「かけ算（2）」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.120）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

12　九九の　ひょう〔かけ算の　きまりを　見つけよう〕　（下 p.41～51）

12月上旬～12月中旬［7時間］

【単元の目標】

（1）乗法について成り立つ性質（乗数が1増えると、積は被乗数の分だけ増えること、交換法則、分配法則）を理解し、簡単な場合の2位数と1位数のかけ算の計算ができる。

（2）乗数、被乗数、積の数量の関係に着目して乗法の性質を考え説明したり、既習の乗法やその構成の仕方をもとに、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えたりするとともに、乗法を活用して日常生活などの場面の問題を解決することができる。

（3）九九の表をもとに乗法の性質について考えた過程を振り返り、簡単な場合の2位数と1位数との乗法の計算の仕方を発展的に考えようとするとともに、身の回りから乗法の場面を見つけ用いようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ②交換法則など乗法に関して成り立つ簡単な性質を図を用いて理解している。 ③簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知っている。	①乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 ②九九の表を使って、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしている。 ③日常生活の問題や算数の問題を、乗法の性質を活用して解決している。 ④既習の乗法やその構成の方法をもとに、簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えている。	①1つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に、乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるというよさに気づき、乗法の場面を身の回りから見つけ、乗法を用いようとしている。 ②乗法に関して成り立つ簡単な性質を見つけようとしている。 ③簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を発展的に考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.41）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　かけ算の　きまり（p.42～46）　4時間			
1・2	○単元アプローチ（p.42） ・九九の表をつくり、乗法九九を振り返る。		態②：観察・ノート
	○九九の表を使って、乗数と積の関係を見いだし、理解する。	・九九の表を調べ、わかったことを発表し話し合う。 ・乗数、被乗数、積の関係を調べる。	知②：発言・ノート 思②：発言 態②：観察・ノート

3	○九九の表を使って、交換法則を理解するとともに、それを活用して日常の問題を考える。	・乗法の交換性を調べる。	知②：ノート・発言 思②③：ノート・発言 態②：観察・ノート
4	○簡単な場合について、２位数と１位数との乗法の計算の仕方に発展的に考え、既習の乗法やその構成の方法をもとにして、２位数と１位数との乗法の計算の仕方を知る。	・12 程度までの２位数と１位数のかけ算の仕方を考える。	知③：発言・ノート 思④：発言・ノート 態③：発言・ノート
2　かけ算を　使って（p.47 ～ 50）　2 時間			
5	○乗法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりし、日常生活の問題や算数の問題を、乗法を活用して解決する。	・Ｌ字型に並んだボールの数を、乗法を使った多様な考え方で求める。	知①：発言・ノート 思①③：発言・ノート
6	○１つ分の大きさが決まっているときに、その何倍かに当たる大きさを求める場合に、乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるというよさに気づき、乗法の式に表したり、乗法の式を、具体的な場面に結びつけてとらえたりして表現する。	・１つ分の長さが決まっているときのテープの長さの求め方を、倍を使って考える。	知①：発言・ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・ノート
学習を　たしかに（p.51）　1 時間			
7	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「九九の　ひょう」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②③④：ノート 態①②③④：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.121）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　ふくしゅう　（下 p.52 ～ 54）

12 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、２学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

13　長い　長さ〔長い　長さを　はかろう〕　（下 p.55 ～ 62）

1 月中旬［5 時間］

【単元の目標】

（1）長さの単位（m）や1m＝100cm という長さの関係、測定の意味（量の大きさを単位を用いて数値化すること）について理解するとともに、測定するものに応じておよその見当をつけて適切な長さの単位を選び、身の回りの具体物の長さを測定することができる。

（2）身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、測定するものや目的に応じた適切な単位を用いて、長さを的確に表現したり比べたりすることができる。

（3）身の回りのものの長さに関心を持つとともに、長さを数値に表して比べたことを振り返り、適切な計器や単位を用いて測定したり表したりするよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長さの単位について理解している。 ②測定するものに応じて、適切な長さの単位を選び、身の回りの具体物の長さを測定することができる。 ③1m がどのくらいの長さであるかを、身の回りにあるものの大きさをもとにしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。	①量の大きさを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考えている。	①身の回りのものの長さを測定しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.55）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
長い　長さ（p.56 ～ 60）　4 時間			
1	○単元アプローチ（p.56） ・30cm のものさしを使って、いろいろなものの長さをはかる。		知②：観察・ノート 態①：観察
2	○長さの単位、メートル（m）について理解する。	・両手を広げた長さをはかる。 ・長さの単位「m」を知る。 ・複名数と単名数で両手を広げた長さを表す。	知①③：ノート
3	○身の回りのものの長さの測定に親しみ、測定するものに応じて、適切な長さの単位を選び、身の回りの具体物の長さを測定することができる。	**【つかってみよう】** ・身の回りのものの長さを、1m ものさしを使ってはかる。	知②：ノート・観察 態①：観察・ノート
4	○身の回りのものの長さの測定に親しみ、量の大きさを表現したり、比べたりする際、測定するものや目的に応じて、どの単位を用いることが適切か考え、同じ単位どうしで計算できることを知る。	・長さの加法・減法の計算をする。	思①：ノート・発言
学習を　たしかに（p.61 ～ 62）　1 時間			
5	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「長い　長さ」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.122）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

14　10000までの　数〔1000より　大きい　数を　あらわそう〕　（下 p.63 ～ 78）

1月中旬～2月上旬〔11時間〕

【単元の目標】

（1）10000までの数について、十進位取り記数法による数の表し方、大小、順序、系列、数の相対的な大きさを理解するとともに、数をよんだり、かいたり、不等号（＞、＜）を用いて数の大小関係を表したり、100を単位とする簡単な加減計算をしたりすることができる。

（2）10や100、1000のまとまりに着目し、十進位取り記数法による数の表し方や比べ方を考えたり、数を相対的な大きさからとらえたりすることができる。

（3）身の回りのものの個数を簡潔・明瞭・的確に数えようとするとともに、10や100、1000のまとまりをつくって考えたことを振り返り、数のまとまりに着目するよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①4位数までの数と1万について、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解している。 ②4位数までの数と1万について、かいたりよんだりすることができる。 ③2つの数の大小関係を「＞」「＜」を用いて表すことができる。 ④4位数までの数について、数を百を単位としてとらえることができる。	①ものの個数を実際に数え、図に表すなどして、十進位取り記数法のしくみによる数の表し方を考えている。 ②4位数までの数について、数のまとまりに着目し、数の比べ方を考えている。 ③数の相対的な大きさをとらえたり、1つの数を他の数の積としてみたりするなど、数を多面的にとらえている。	①身の回りのものの個数を100のまとまりにして数えたり、数えたものを数字を使ってかいたりよんだりしようとしている。 ②4位数までの数について、簡潔・明瞭・的確に数えようとしている。 ③身の回りから、整数が使われている場面を見つけようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.63）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　数の　あらわし方（p.64 ～ 75）　8時間			
1	○単元アプローチ（p.64） ・折り紙の枚数を、10、100、1000のまとまりにして数える。		態①：観察
2	○ものの個数をまとまりにして数えたり図に表したりして考え、4位数までの数について、十進位取り記数法による表し方を理解するとともに、それを書いたりよんだりすることができる。	・4位数の加法的構造を調べ、4位数のよみ方、かき方を知る。	知①：発言・ノート 思①：観察
3	○空位のある4位数について、かいたり読んだりすることができる。	・空位のある4位数のよみ方、かき方を考える。 ・4位数のよみ方、かき方の定着を図る。	知②：ノート
4	○4位数について、数のまとまりに着目し、百を単位としてとらえることができる。	・4位数を乗法的にとらえる。 例　100を16こ集めた数を考える。 2300は100を何こ集めた数か考える。	知④：ノート 思②：観察・発言
5	○ドットの数を、簡潔・明瞭・的確に数えようとし、10000について、かいたりよんだりすることができる。	・100や1000をもとにして、10000を数える。	知②：観察・ノート
6	○4位数について、数直線を使って大小や順序について理解する。	・10000までの数の順序、系列を調べる。	知①：観察・ノート 態②：観察・ノート
7	○4位数について、数のまとまりに着目し、数の比べ方を考え、その大小関係を「＞」「＜」を用いて表すことができ、身の回りから、整数が使われている場面を見つけようとする。	・2つの数の大きさを比べる。 **【使ってみよう】** ・身の回りからいろいろな数を探す。	知③：ノート 思②：発言・ノート 態③：観察
8	○4位数について、数の相対的な大きさをとらえたり、百を単位としてとらえたりすることができる。	・2800をいろいろな見方で表す。	知④：発言・ノート 思③：発言・ノート

② 何百の　計算（p.76）　2時間			
9・10	○身の回りのものの個数を100のまとまりにして数えたり、数えたものを数字を使ってかいたりよんだりして、百を単位として計算することができる。	・100を単位にした加法、減法の計算の仕方を考える。 例　800＋500、800－100	知④：観察・ノート 態①：観察・ノート
学習を　たしかに（p.77～78）　1時間			
11	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「10000までの　数」の　学習を　振りかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③④：ノート 思①②③：ノート 態①②③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.123）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

15　もんだいの　考え方〔図に　あらわして　考えよう〕　（下p.79～86）

2月上旬～2月中旬［6時間］

【単元の目標】

（1）加法と減法の相互関係について理解するとともに、問題場面を図や式に表し、式を用いて問題を解決することができる。

（2）加法と減法の相互関係に着目し、場面を表した図をもとに数量の関係をとらえたり、式や答えの求め方を考え表現したりすることができる。

（3）場面を図に表して問題解決したことを振り返り、数量の関係をわかりやすく表せる図のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法と減法は互いに逆の関係になっているなど、加法と減法の相互関係について理解している。	①加法と減法の相互関係について、図をもとに考え、式で表現している。	①加法と減法の相互関係を考察するのに用いる図のよさに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.79）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
もんだいの　考え方（p.80～84）　5時間			
1	○単元アプローチ ・簡単な減法の問題場面（求残）を図で表す。 ・□の使い方を知る。		態①：発言・ノート
2	○a－□＝bの場面を図で考え、a－b＝□という式で表現することによって、このような場面の問題を解決する。	・減法逆減法の場面を図に表し、問題を解決する。	知①：ノート 思①：発言
3	○□－a＝bの場面を図で考え、b＋a＝□という式で表現することによって、この場面の加法と減法の相互関係について理解する。	・減法逆加法の場面を図に表し、問題を解決する。	知①：ノート 思①：発言・ノート
4	○a＋□＝bの場面を図で考え、b－a＝□という式で表現することによって、この場面の加法と減法の相互関係について理解する。	・加法逆減法の場面を図で表し、問題を解決する。	知①：ノート 態①：発言
5	○加法と減法の相互関係を考察するのに用いる図のよさに気づき、加法と減法は互いに逆の関係になっているなど、加法と減法の相互関係について理解する。	・増加や加法逆減法の問題場面をテープ図に表し、求め方を考える。	知①：ノート 態①：発言・ノート
学習を　たしかに（p.85～86）　1時間			
6	○『わかって　いるかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「もんだいの　考え方」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①：ノート 思①：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.124）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

16　はこの　形〔はこの　形を　しらべよう〕　（下 p.87 ～ 94）

２月中旬～２月下旬［６時間］

【単元の目標】

（１）箱の形を構成する要素（面、辺、頂点）の意味やその形、数などを理解するとともに、正方形や長方形を組み合わせたり、ひごと粘土玉を使ったりして、箱の形をつくることができる。
（２）図形を構成する要素（面、辺、頂点）に着目して図形を分類し、箱の形の特徴を考え見いだすことができる。
（３）身の回りの箱の形に関心を持つとともに、箱の形の構成要素に着目したことを振り返り、箱の形をつくろうとしたり、身の回りから箱の形（直方体、立方体）を見つけようとしたりしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①箱の形について、３種類の長方形が２組で構成されていることなどを理解している。 ②正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。	①箱の形について、その違いに気づき分類し、分類した箱の形の特徴を見いだしている。	①身の回りの箱の形をしたものが、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。 ②正方形や長方形を組み合わせるなどして、箱の形を構成しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.87）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　はこの　形を　しらべよう（p.88 ～ 93）　５時間			
1	○単元アプローチ（p.88） ・身の回りの箱を集めて、特徴を調べ、なかま分けする。		思①：観察・発言 態①：観察
2	○箱の形について、その違いに気づき分類し、分類した箱の形の特徴を見いだし表現して、３種類の長方形が２組で構成されていることなどを理解する。	・箱の形の構成要素（面）を知る。 ・箱の面を紙にうつし取り、その形や数を調べる。	知①：ノート 思①：発言
3	○正方形や長方形を組み合わせて、進んで箱の形を構成することができる。	・うつし取った面の形を切り取り、箱の形を構成する。	知②：観察 態②：観察
4	○正方形や長方形を組み合わせて構成した箱の形について、その違いに気づき分類し、分類した箱の形の特徴を見いだす。	**【つかってみよう】** ・長方形や正方形の紙をつないで、箱の形を構成する。	思①：観察・発言 態②：観察
5	○ひごと粘土玉を用いて箱の形を構成し、できた形の辺と頂点について理解する。	・ひごと粘土玉を使って箱の形をつくり、箱の形の構成要素（辺、頂点）を知る。	知②：観察・ノート 態②：観察
学習を　たしかに（p.94）　１時間			
6	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「はこの　形」の　学習を　ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①：ノート 態①②：ノート

17　分数〔分けた　大きさの　あらわし方を　考えよう〕　（下 p.95 ～ 101）

3 月上旬［5 時間］

【単元の目標】

（1）$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$、$\frac{1}{4}$などの簡単な分数（分母が 1 桁程度の単位分数）の意味を知り、同じ大きさに分けたときの 1 つ分の大きさを分数で表したり、よんだりすることができる。

（2）もとの大きさに着目して等分したものの大きさを分数で表したり（12 個の$\frac{1}{3}$は 4 個）、等分したものの大きさに着目してもとの大きさ（4 個の 3 倍は 12 個）を考えたりしている。

（3）具体物を操作して得られた大きさを分数で表したことを振り返り、分数を用いると等分した大きさを表すことができるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$など簡単な分数について知っている。	①等分した大きさをつくり、それを数で表すことを考えている。 ② 12 個を 3 等分した場面などを「12 個の$\frac{1}{3}$は 4 個」などと表現している。 ③もとの大きさが違う場合、それぞれの$\frac{1}{2}$の大きさについて考えている。	①分数を用いると等分した大きさを表すことができるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの　学習の　ために」（p.95）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
分数（p.96 ～ 101）　5 時間			
1	○単元アプローチ（p.96） ・食べ物を同じ大きさに分けたときの表し方を考える。		思①：発言・観察
2	○$\frac{1}{2}$が半分の大きさを表すことを知る。	・折り紙を折って、半分（$\frac{1}{2}$）の大きさをつくる。 ・「二分の一」、「$\frac{1}{2}$」という表し方を知る。	知①：発言・ノート
3	○$\frac{1}{4}$、$\frac{1}{8}$、$\frac{1}{3}$など簡単な分数について知り、分数を用いると等分した大きさを表すことができるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとする。	・折り紙をさらに半分に折って、$\frac{1}{4}$の大きさをつくる。 ・「四分の一」、「$\frac{1}{4}$」という表し方や用語「分数」を知る。 ・3 等分した折り紙を見て、「三分の一」、「$\frac{1}{3}$」という表し方を知る。	知①：発言・ノート 態①：発言
4	○ 12 個を 3 等分した場面などを「12 個の$\frac{1}{3}$は 4 個」などと表現し、分数を用いると等分した大きさを表すことができるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとする。	・12 個のブロックを操作して、$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$、$\frac{1}{4}$の大きさをつくる。	思②：発言
5	○元の大きさが違う場合、それぞれの$\frac{1}{2}$の大きさの違いについて考える。	・8cm と4cm のテープをそれぞれ$\frac{1}{2}$の大きさにした長さを考える。	思③：観察・発言

● 算数ジャンプ （下 p.102 ～ 103）

3 月上旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○ 10 をつくる計算ゲームを通して、答えの大小や数の組み合わせを考えた計算活動に挑戦する。

＊ レッツ プログラミング （下 p.104 ～ 105）［配当時数なし］

時間	学習活動
※	・「レッツ プログラミング」は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

● 2 年の ふくしゅう （p.106 ～ 110）

3 月中旬［3 時間］

時間	学習活動
1 〜 3	○1 ＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、2 年の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。